

21世紀に
伝えたい

ちば

の魅力

No. 15

年間一千万人以上が訪れる
成田山新勝寺



初詣の人でにぎわう本堂前。1968年建立の本堂は高さ32.6m、内陣の広さは296畳

どうやって参詣者を数えるの？

「成田のお不動さま」の呼び名で親しまれている成田山明王院新勝寺は、全国に8か寺の別院、12か寺の分院、53か寺の末寺・末教会がある真言宗智山派の大本山です。本尊は木造不動明王及二童子像(国の重要文化財)。940年、平将門の乱を鎮圧するための護摩祈祷を行った寛朝大僧正が開山しました。「新勝寺」という寺号も朝廷側が将門軍に勝って平定したことに由来します。参詣客は年間1千万人を超え、2001年の正

月三が日の初詣客数は289万人で、326万人の明治神宮に次いで全国2位(警察庁調べ)。この人数は成田警察署によれば、仁王門のところの階段(約50段)上に立っている人の数、JR・京成線の降車人数、周辺の有料駐車場の稼働率を総合的に判断し、発表しているそうです。

JR成田駅から第一信徒会館前まで約1kmにわたる表参道の急坂には、名物の栗羊羹や瓜の漬け物が並び土産物屋、うなぎ屋、旅館などが軒を連ねています。境内の奥にある成田山公園は丘陵地を利用した165,000㎡の広大な敷地です。ウメ、サクラ、ツツジなどの樹木が植えられ、特にウメの古木が咲き揃う早春は多くの人でにぎわいます。そのほか新勝寺の歴史を豊富な資料で紹介する成田山雲光館、書道美術館、仏教図書館など見所いっぱいです。

表参道から本堂までは急な石段があ



成田山公園内の龍智の池。噴水や滝などもあります



成田新勝寺。表参道の電線地中化工事で山車の人形をせり上げての通行が可能に

るため近年車イス専用エレベーターが整備されました。成田市老人クラブ連合会によるシルバーボランティアガイドも好評です。



境内は大きな博物館 国の重要文化財5棟

- ① 仁王門 1830年建立 重厚な外観の三間一戸の八脚門で、屋根は入母屋造銅板葺。門の左右に金剛力士像と密陀力士像を安置している。
- ② 三重塔 1712年建立 高さ約27m。竜や十六羅漢の見事な彫刻をほどこした華麗な塔。五智如来を安置している。
- ③ 新遊堂 1858年建立 現在の本堂が建てられる前の本堂。屋根は入母屋造瓦葺で、正面



三重塔

が千鳥破風付の内拜がある。釈迦如来座像を安置している。

④ 額堂 1861年建立 奉納額や絵馬を掛ける建物。当初あった背面の壁面は取り払われて四方を開放している。

⑤ 光明堂 1701年建立 新遊堂以前の旧本堂。屋根は入母屋造様瓦葺で大日如来坐像を安置している。



光明堂

成田市観光協会 ☎ 0476-22-2102
 成田市役所 H P <http://www.city.narita.chiba.jp>
 成田山新勝寺 ☎ 0476-22-2111
 H P <http://www.naritasan.or.jp>

なぜこんなに有名になったの？

江戸時代以前は本堂も焼失したままだった新勝寺が江戸の町で知られるようになるのは元禄期(1688年~1704年)頃からです。以後の江戸時代に12回もの出開帳(新勝寺以外での開帳)が行われました。このうち10回は深川の永代寺で行っています。重要



現存するものではないが、現在の日本堂(現・華厳堂)は表参道の途中に移されています。一六五五年建立



「成田山新勝寺境内式覽」(明治14年)。当時の本堂は現在の釈迦堂。仁王門からの急な石段は今も変わっていません(成田山観光館蔵)

文化財に指定されている伽藍も江戸時代に整えられました。江戸には成田講(不動講)と呼ばれる団体が参拝する組織が数多く結成され、参詣ルートとなった佐倉街道はいつしか「成田街道」と呼ばれるまでになりました。再建の度に拡大していく本堂が寺の隆盛を物語っています。これに伴い一農村に過ぎなかった成田も商人たちが活躍する門前町へ変わり、旅館、居酒屋、菓子屋などができ商業が発達しました。

門前町の華やきを今に伝える成田祇園祭が毎年初夏に行われます。3日間にわたって10台の山車や屋台が参道を巡行し、本堂

前に勢ぞろいしての競演は圧巻です。成田観光館には本物の山車が展示されています。

保の改革で江戸治政となった際には成田で1年余り暮らしました。



豊車を創出して江戸の庶民を豊した初代市川團十郎の碑(成田市幡谷)

「成田屋」って知ってる？

江戸庶民に新勝寺を知らしめた重要人物が、歌舞伎役者・市川團十郎です。初代団十郎は、その父親が幡谷村(現・成田市幡谷)の出身だったことから、新勝寺に願かけをして子を授かったと喜び、「一心二河白道」で成田山不動明王を初演。その後も「兵根元會我」「成田山分身不動」と次々に上演し、「成田屋」の屋号も使われるようになりました。特に七代目は願堂寄進や奉納芝居を行うなど同寺との関わりが深く、天

県内初の電車があったの？

門前町・成田に県内初の電車が走ったのは明治末期の1910年のこと。成宗電気軌道の成田山門前～成田駅前間(1.1km)が開通、翌年成田駅前～赤沼間(5km)が全線開業しました。1944年戦争資材へ転用するために廃線になりました。

多くの参詣客を運んだ車両の一つが、1993年から副都心市電で使われています。台車は当初のまま車体も図面を基に復元され



かつて訪ね電車があったレングのトンネル(成田市上町)

市制70周年を記念してカムバックした「箱館ハイカウ号」



「箱館ハイカウ号」の愛称で親しまれています。(運行は毎年4/15~10/31)

4月 3日 おどり花見(県指定無形民俗文化財)
第1日 取香の三番叟(同)、香取神社の獅子舞(市指定無形民俗文化財)、花まつりパレード
第2土・日 関東一の太鼓まつり



5月 桜まつり、大塔まつり、新能
7月 8日 前後の金・土・日 祇園祭
17日 増生神社祭礼
31日 麻賀多神社祭礼
31日~8月1日 三里家の祇園祭

成田の四季

8月 23、24日 成田山みたま祭
下旬の土・日 成田ふるさとまつり
9月 2、3日 お待夜祭
11月 3日 ふるさとまつり
第1土・日 成田時代絵巻
そのほか菊花大会、産業まつり
12月 28日 納め札お焚き上げ
1月 1日 元朝渡華修行
2月 3日 節分会
下旬~3月上旬 梅まつり
※日程など変更になる場合もあります。



あちこち印旛沼散歩

宗吾を救った甚兵衛

江戸時代、命をかけた將軍への直訴で農民を救った佐倉宗吾(木内惣五郎)の伝承は全国的に知られています。印旛沼の渡し守だった甚兵衛は我が家に立ち寄る宗吾の頼みを聞き入れ、禁制を犯して船を出し、死罪となりました。この甚兵衛渡しの跡が甚兵衛公園となっていて見事な松林があります。

また市内には宗吾をまつる宗吾霊堂(東勝寺)もあります。交通 ■ JR成田線下総松崎駅から徒歩約50分。または京成線・成田駅からバス約25分

成田市

メタルアートの個性派美術館

印旛村

「メタル・アートミュージアム・光の谷」は印旛沼捷水路脇のユニークな建物。四季折々の花が咲く庭にも作品を展示しています。2002年1月6日から国会議事堂内のブロンズ扉も手がけた郷土の鍍金作家・津田信夫の作品など企画展開催。交通 ■ 京成線・佐倉駅北口からバス約10分、徒歩約30分 ☎0476-98-3151(月曜休館)



冬の田んぼに白鳥がやって来る

本埜村



本埜第二小学校近くの農閑期の水田にハクチョウが飛来します。「白鳥の郷」と名付けられ本埜村白鳥を守る会がエサやりなど親身に世話をしている、地元では冬の風物詩として定着。1992年の初飛来確認から越冬数も増え、昨年は最高で271羽を記録しました。10月下旬から3月上旬まで遠方からも見学客が訪れます。交通 ■ JR成田線小林駅から徒歩約50分

楽しく学ぶ体験博物館



栄町

千葉県立房総のむらは農家、武家屋敷、商家など24棟の建物で江戸時代後期から明治時代初期の県内を再現しています。

各建物で行われる家業に合わせた実演・体験プログラムは年間300種以上もあります。

交通 ■ JR成田線安食駅からバス約8分
開館時間 ■ 9:00~16:30
月曜休館
☎0476-95-3333

大迫力！大きな翼を眺めに行こう

成田空港そばにある飛行機の展望に格好のスポット。

● 成田市さくらの山

交通 ■ 県道成田松尾線、小菅交差点から成田小見川鹿島路線へ、トンネル手前左手。

● 三里塚さくらの丘

交通 ■ 国道296号線を南三里塚から成田松尾に入っすぐ。

● 航空科学博物館(芝山町)

交通 ■ JR・京成線成田空港駅からバス15分
開館時間 ■ 10:00~17:00

(月曜休館)

☎0479-78-0557

